

町田市議会議員・納税者主権

町田市議会

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171

保守連合会派室



双方向の情報交流

ごみ袋高齢者無料に改善意見

「収集袋製造委託業務、配布業務について、全世代に公平な施策を実施するために有料ごみ袋の70歳以上の高齢者無料配布の見直しを図りたい」と言う考えが、町田市議会の多数意見になりました。当初、私が一般質問で初めて議論のテーブルに上げたものですが、当初は私の主張への支持があまり無かったようでした。

しかし、町田市が教育費を削減する一方で、高齢者のみを無料とする施策を放置することは不公平感がぬぐえない状況でした。ごみ袋の高齢者無料配布施策の改善は欠かせないとする立場に共感する意見が出始め、決算委員会の「付帯意見」においては「改善」派が多数になりました。継続して第4回定例会でも、この問題解決を一般質問で対応策を求め、行政も重い腰を上げざるを得ない状況になりました。具体的な手順や時期は分かりませんが、来年度にも新たな施策が出されるかもしれません。最も、政治家としては、行政が議会の決算委員会で指摘された改善事項を放置した方が自身の存在価値が高まるのかもしれませんが。これから一層、行政の施策内容を注目していきます。



学校教育予算充実の決議

従前、議会の「決議」や「決算委員会の付帯意見」に関して、行政はそのことに直接答えるスタンスを取っていませんでした。私はそれではいけないと考え、議会が行政に対して「成文として求めた決定」に関して、どのように受け止めているのか、どのような対応を取るのか、これを議会に対して文書で明らかにすべきだと「一般質問」で問いました。

果たして、今回の「学校教育予算の充実についての決議」(全会一致)には、どのような対応をするのでしょうか。まず、今年度の「教育費減額」と言うことに関して、行政が来期、方針をどのように定めるのか、また、その方針をどのような方法で明らかにするのか、見守って行きたいと思います。

今回の決議は行政の予算編成に絡むことですが、議員以上に、子どもたち(児童・生徒)の保護者、学校関係者が注意深く見つめる内容ですので、我々が得た情報をリアルタイムで市民に情報発信することが重要だと思っています。そして、町田市議会にとっては、町田市の教育予算減額に関する方針の修正・復活(あるいは、かさ上げ)を図ることが最重要課題だと考えています。



★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ(自宅)

町田市議会報告 住民自治

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

吉田つとむ自宅

〒194-0011
東京都町田市
成瀬が丘1-14-12
サンホワイトE103-13
☎042-795-7361

成果目標が「人集め」商店街

今年度メンバーとなった、決算委員会では、「商店街活性化事業」の成果を問いました。途中で、名称は変わったことがありますが、例年、まったく同じ内容の補助事業が継続されているために、果たしてどのような成果が上がっているかと尋ねたものです。「資料要求」した一覧表の記載内容を見ると、大半が補助金を使ってお祭りをやり、成果として、「人が集まった」と言うもので、極端な例では「商店街の名前が知れた」と言う文言を記しているものもありました。



これだけ斜陽化が指摘される「商店街」と言うものが毎年「名前を知れた」と主張する当事者と、市役所担当者の活性化意識が不思議でなりません。思うに、もう、自分は十分のお金を貯めたので、後は「人が集まるのをお祭りで見ればよい」と言う価値観や商店街幹部の意識がその停滞をもたらしているのでしょうか。本気で商売をする、あるいはそれを生業とする発想の商売人にはとても持ち合わせない特徴です。物やサービスが売れるように、もっと端的に言えば、儲けがある商売に繋がる事業に転換させることが課題だと思っています。

町田市の工芸美術品の価値は無い

町田市は新たな「箱もの施設」として、(仮)町田市立国際工芸美術館を建設しようとしてその準備を進めています。他方で、行政は町田市が財政難であるとあらゆるところで主張しています。これだけでも、矛盾した話となっていますが、それ以上の問題点があります。

まず、新たな施設に町田市が飾ろうとするのは、ボヘミアン・グラス(チェコ西部)や東南アジアの陶芸品などです。私が議会の一般質問で尋ねると、町田市の歴史や文化伝統と全く関係ない収蔵品だと言うことでした。当事者の説明では、それらは一級品だと言いますが、個人の愛好家が収集して、他人に自慢すればそれで済むことです。何もその建設物に30億円もかけて展示する必要はなく、実際にそれほどの価値はないでしょう。*私は、伝統工芸品専門の販売会社で十数年間も営業職をしていた経験から述べました。

町田市の歴史遺産や、地場産業につながるならともかく、「なぜ、それを町田市がやるのか」を十分に検証せずに事業を進めるやり方に鋭く疑問を呈しました。出来てしまえば、「こんなものいらない!」の代表格になるのではないかと思います。



博多人形展に出向き鑑賞

掲載記事、あるいはご関心事は、下記のFAXかもしくはメールまでご送信ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

Mail : yoshidaben@gmail.com

mobile専用 : yoshidaben@docomo.ne.jp

町田市議会報告 教育・文化

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



次期インターン生を募集しています

町田市議会

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171
FAX.042-724-1196

保守連合会派

渡辺梨菜4年研修レポート

4年生の後期になって卒論を作成する合間に、上野の東京美術館で開かれている「モネ展」を鑑賞しました。吉田つとむ議員の元インターン生として、時折こうした見学同行を続けていますが、その際のレポートとして作成しました。私が卒論のテーマにしている、イギリス・フランスなどの歴史文化交流を考える際に、大変参考になりました。



モネ (1840 - 1926年) はフランスの画家であり、印象派の巨匠として有名です。その多数の作品を時代をおって鑑賞する機会に接することができてとてもうれしい日となりました。この時の鑑賞の機会は後期の展示期間でしたので、自身のアトリエの池に咲いた「睡蓮」がメインになった展示でした。作品には、パリ市内を題材にしたものもあり、私は旅行でフランスに行ったことがあるので、パリ市内の名所を描いた作品は特に懐かしい思いでした。東京美術館の館内で時間を忘れるほどに、気になる作品の前で立ち止まりました。日本の浮世絵に影響を受けた作品もあり、モネの作品から広い世界が見えるようでした。

フェリス女学院大学4年・渡辺梨菜 (第34期)

元研修生林啓子さんを職場訪問

林啓子さんは、吉田つとむの第23期生のインターン生でした。大学卒業後、法科大学院に進み、難関の司法試験に1度で合格し、司法修習に励み、一昨年より弁護士となりました。現状をネットで確認すると、林さんは都心の大きな法律事務所に所属し、有名な裁判にも関わっていることがうかがえました。

これまで、林さんが弁護士登録する時点で訪問挨拶を受けましたが、その所属事務所を訪ねるのは初めてのことでした。弁護士は民事にも刑事にも関わり、霞が関が仕事の主舞台になっているとのことでした。行政も弁護士を採用する時勢ですので、自分の元インターン生がこうして司法の分野で活躍する姿を見るのは実に頼もしいことです。時によっては、行政側に、ある時は相手側になって、対応することがあるかもしれませんが、弁護士は依頼された相手に尽くして上げるのが仕事ですので、どの場面で相応するのか予測できません。将来、思いがけない場面で再会するかもしれませんが、どのような状況であれ、弁護士として林啓子さんはより頼もしく成長していることでしょう。

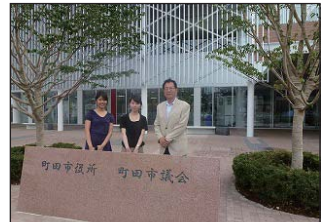


林啓子さんの所属事務所の応接室で撮影

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

携帯QRコード
でブログ閲覧

市議会の見学・傍聴

研修レポート⑪ 稲葉千岬

最後の本会議を傍聴した際には、委員会傍聴に来ていた人と同様に真剣に資料を見て、メモを取り、時には頷いたり…。委員会傍聴の時も書きましたが、傍聴に来るのはほとんどが年配の方です。私たち若い世代も見習わなければならないと強く感じました。



昭和女子大学2年生 稲葉千岬 (第36期)

さて、今回で「吉田つとむ議員」のインターンシップが終了しました。インターンシップをさせていただいて思ったことは、政治家について私たちが知っていることは一側面にしかならないということです。ある祭りを訪ねた時、吉田議員が出した意見に対し厳しい声や視線が投げられていました。私はこの姿を見て、とてもじゃないけど自分は政治家にはなれないと感じました。政治家は苦勞が多い割には、人々に好かれぬ・知られぬ職業であると感じました。それでも、私たちのインターンシップをする前の朝と終わった後の夜も、駅頭に立ち市議会のレポートを配っていたり、会う人会う人に丁寧に挨拶をする吉田議員の姿から、社会人としてのゆるぎない信念と情熱を学ぶことができました。

研修レポート④ 石井優希

今回は映画愛好家・村山知さんのご協力のもとで、吉田議員主催の映画鑑賞セミナーを開きました。そこで「望楼の決死隊」という、日中戦争が起こる前の国境警察官たちの映画を村山さんにお貸し頂き、鑑賞しました。本タイトルに関して、今井正監督はこのような映画を撮ることは本意ではなかったようだ、との解説がありました。今でこそ表現の自由は基本的な権利とされていますが、これまでのプロセスを今一度考え、思想の発露が制限された時代にも目を向けていきたいと思いました。

セミナーでは稲葉さんと分担し前半の司会を務めました。直前に段取りの変更があったことなど、短時間ではありましたが、このような機会でのタイムマネジメントの難しさを痛感しました。進行に関しては、手元のメモに目線が落ちがちだったと思いました。目線が落ち、下を向いてしまうと声がこもってしまいます。この反省を次回に活かしたいと思いました。



昭和女子大学3年生 石井 優希 (第36期)

★吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行

★大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を行う研修制度です。

インターン希望の方、あるいは関心がある方は、ホームページ掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。